

令和3年9月15日

日本畜産学会 129 回大会 若手奨励・男女共同参画推進委員会  
ランチョンセミナー開催報告

日 時： 2021 年 9 月 15 日（水） 12:00～13:00

会 場： オンラインミーティング（オンタイム）

演題 1：「子連れ留学体験記」

和木美代子 博士（農研機構畜産研究部門 上級研究員）

演題 2：「コロナ禍で研究を続けるために」

福井えみ子 博士（宇都宮大学農学部 教授）

参加者数：99 名

木村直子委員長の挨拶で始まり、事前に送付された「仙台牛カレーおよび麦飯」は、東北大学のある宮城県仙台市にゆかりのある農産物、畜産物消費によるコロナ禍での農家応援をこめて、今回のランチョンセミナーで配布したとの説明がありました。発送には日本畜産学会事務局に応援頂きました。お礼申し上げます。

「子連れ留学体験記」は、農研機構畜産研究部門高度飼養技術研究領域の和木美代子博士にご講演頂きました。2015年に6か月間、3歳の息子さんとフランス環境農業技術総合研究所（IRSTEA, 現 INRAE）へ留学されました。留学の準備、留学中の研究内容について説明され、家庭生活では、フランスの幼稚園、学童保育およびベビーシッター事情などについてご講演頂きました。お子様の行政に関する手続きが複雑であった事などとても参考になる内容でした。講演後、2名の方から行政面での子供の手続きについて質問を受けていました。また、イチゴやチーズなどの写真とともに楽しい話題を交えながらの講演は興味深いものでした。続いて「コロナ禍で研究を続けるために」は宇都宮大学福井えみ子博士にご講演いただきました。はじめに宇都宮大学のコロナ対応など学生がおかれている研究環境の紹介、次に研究を進めるうえで苦労した事などを学生に聞いた大学が行ったアンケート調査結果、最後に現在の日本畜産学会の会員の入退会状況をご紹介頂きました。数値でのご説明は説得力がありわかりやすいと評判でした。セミナーに参加された2名の大学院生からコロナ禍で研究を続ける上で苦労した事を報告頂きました。

なれないオンライン開催でしたが、良いこともありました。対面でのセミナーではこれまで紙でご感想をいただいておりますが、今回はオンラインでしたので、メールでアンケートをお願いしたところ、数多くの感想、ご意見、今後のテーマについての返信をいただくことができました。セミナーへの反響の大きさを実感するとともに、今後のテーマについてのヒントをいただくことができ、大変ありがたかったです。この場をお借りして感謝申し上げます。

今回は100名近くの方にご参加頂きました。本ランチョンセミナーを視聴して、留学やコロナ禍で研究を続けるうえでのモチベーションアップに繋がれば幸いです。

報告者：福井えみ子（宇都宮大学）、野中最子（農研機構）

2021年9月15日  
日本畜産学会 129 回大会  
男女共同参画委員会企画

## 子連れ留学体験記



農研機構畜産研究部門  
高度飼養技術研究領域  
和木美代子

### 日本畜産学会第129回大会

男女共同参画推進委員会  
ランチオンセミナー



### コロナ禍で研究を続けるために～

—日本畜産学会の入退会者数の調査結果—



2021-9-15  
宇都宮大学農学部  
福井えみ子

## \* 宇都宮大学の近況 授業について

密を避けるため、4月から実施



A日程 1, 3年生対面授業  
(2, 4年生オンライン)

B日程 2, 4年生対面授業  
(1, 3年生オンライン)

昨年はオンライン授業のみでした  
(卒業論文発表会もオンラインで実施)



## \* 対面授業は、市松模様



### 教室で食事をする際の諸注意

- 大学生協食堂等の混雑を避けるため、昼食を持参することを推奨しています。
- 授業時と同様に市松模様の座席で利用してください。
- 教室では、昼休み時間に食事を摂ることができますが、感染防止に努め食事の会話は控えてください。
- アルコール消毒の徹底をお願いします。
- 食事で利用した机は、授業に備え付けのアルコール消毒を徹底してください。
- 3コマ目(12:45)以降の場合は、特に家で昼食を摂ってください。
- 食事のゴミは、汚さないように



## \* コロナ感染に関する不安

- 1、研究室での感染を不安に感じる学生は50%  
 昨年のゼミはオンライン  
 実験室ではソーシャルディスタンス、手指消毒の徹底など
- 2、生協食堂での感染を不安に感じる学生は28%  
 昼食持参を奨励（黙食-マスク会話）

皆さんの研究室ではどのように対策していますか？

大学院生のアンケートより抜粋

8

## \* 大学院生の学生生活に関する不安

- 1、就職活動（46%）  
 R2年度は例年通りの就職率  
 R3年が心配です。
- 2、研究の遅れ（27%）  
 サンプル採取に出張できない事例あり  
 テーマの一部変更など
- 3、生活費の減少（26%）  
 飲食関連や塾の講師などのアルバイトを行っていた学生は、  
 店の営業時間短縮や塾のオンライン化により生活費が減少した。  
 R2年度は、大学および企業からの支援金等、学生へ支援しました。

大学院生のアンケートより抜粋

9

## \* オンライン学会のメリット

- 1、コロナ禍の移動の必要なく参加可能（国際学会含む）
- 2、繰り返し視聴可能（オンデマンド形式）
- 3、同時に行われた発表も両方視聴可能（オンデマンド形式）
- 4、質疑も時間にとらわれることなく可能（オンデマンド形式）
- 5、発表した学生はオンラインで緊張せずに発表できたとの事

12

## \* オンライン学会のデメリット

- 1、発表後の質疑応答における気軽な情報交換が難しい  
（オンタイムの形式なら可能かもしれません）
- 2、研究者たちの実際の質疑応答でのやり取りを視聴することでの学び、  
およびその場で学生自身が発表して研究者と質疑応答するという  
経験の機会が減る
- 3、現地へ行けなくて残念

13

## 子育ての若手研究者のオンラインでの 学会参加について

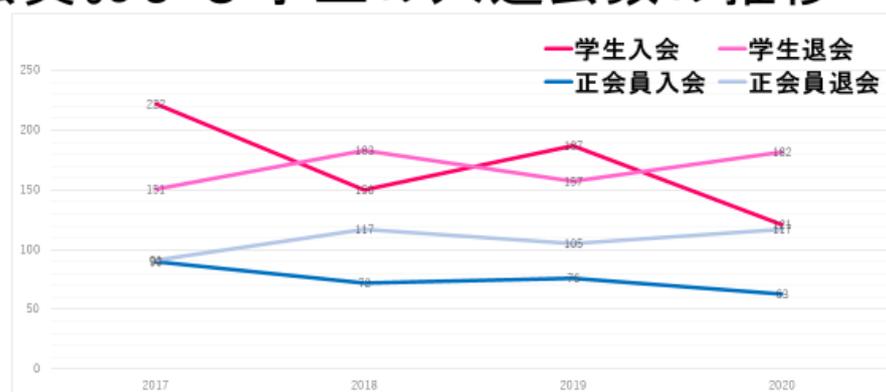
\* 育児等で自宅からの学会参加が難しい場合もある

**今回、日本畜産学会では、この際の預かり保育費を支援！！**

(今後、介護等で自宅からの学会参加が難しい場合もあるかもしれません。)

14

## 日本畜産学会における 正会員および学生の入退会数の推移



\* 日本畜産学会への学生入会数を増やすための施策の必要性を感じました。

コロナ禍

15

## 日本畜産学会年次大会における 正会員および学生の演題登録数の推移

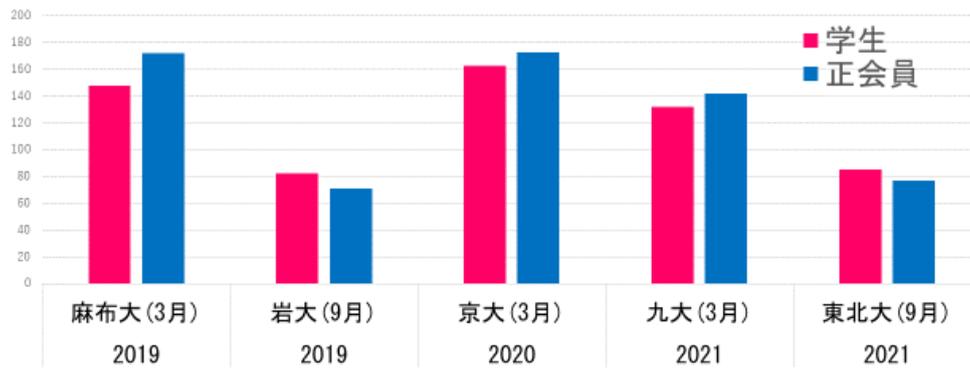


図3. 演題登録数の推移

\* 日本畜産学会大会への学生の参加登録数を増やすための施策の必要性を感じました。